

英語句動詞 take a look at における両義性について

岡 良 和

〈キーワード〉

① take ② 知覚 ③ 両義性

〈論文要旨〉

英語には、take an action、take a nap、take a walk など、take に動詞派生名詞が後続する句動詞がある。小論の目的は、take a look at における知覚の捉え方を、類似表現である cast a glance at や catch a glimpse of と比較しながら分析することを通して、take の意義を明らかにすることである。

The Ambiguous Nature of the English Phrasal Verb *take a look at*

Yoshikazu OKA

〈Keywords〉

① take ② perception ③ ambiguity

〈Abstract〉

English has such phrasal verbs as *take an action*, *take a nap*, *take a walk*, in which nominalized verbs follow *take*. The purpose of the present paper is to study the nature of *take* in *take a look at* with reference to *cast a glance at* and *catch a glimpse of*, showing the ambiguous nature of this phrasal verb as to the perceptive directions.

英語句動詞 take a look at における両義性について

岡 良 和

はじめに

英語には walk, rest, kick などの動詞を名詞化し、それを take a [walk, rest, kick] のように take の目的語とする表現がある。Look at についても take a look at というこれと同じタイプの表現がある。本論の目的は、take が持つ「取る、掴む」と「話し手や聞き手が存在する場所から離れた方向へある対象物を移動させる」のいずれの意味が look at が持つ「…を見る」と共起性を有するのか、という問題について考察することである。

1. Take の基本義

Norvig and Lakoff (1987) によれば、英語動詞 take の基本義は以下 (1) とされている。

- (1) John took the book from Mary.

— Norvig and Lakoff (1987: 199)

上記 (1) の意味的特徴は以下 (2a-i) により示される。

- (2) Take-1: grab

- a. Background Conditions: R is at D, P is at O, $O \neq D$, $S \neq R$, $A=R$.
- b. Act: A MOVES P ALONG A PATH FROM O TO D (WITH I)
- c. CONDITION: DURING ACT, A PHYSICALLY CONTROLS P
- DEFAULTS:
- d. Result: A receives P
- e. A is human
- f. P=easily manipulated physical object
- g. I=A's arm and hand
- h. O=near A
- i. D=at A's body

Examples:

The baby took the toy from its mother.

The baby took the toy from the table.

上記 (2a-i) から示唆されるように、take の基本義は「取る、掴む」であり、「話し手や聞き手が存在する場所から離れた方向へある対象物を移動させる」という意味は上記 (1) からの拡張義である。

2. 「Take + 動詞派生名詞」構文の意味的特徴

セクション 1. (2 c, f, g) より、以下 (1a-c) – (3a-c) のような使い分けが生じる。

- (1) a. take a look at
b. *take a see
c. *take a stare
- (2) a. take a nap
b. *take a sleep
- (3) a. take a walk
b. *take a run
c. *take a journey

take の目的語の指示物は「手に取ることができる」物理物である。このことが、動詞が名詞化した場合にも反映されて、「行為の所要時間が短い」ことや「行為が容易である」ことが take と共起できることの条件であることが分かる。

Norvig and Lakoff (1987) によれば、以下 (4) のような、「ある知覚行為を行う」場合に用いられる take は、「知覚することは受け取ることである」というメタファーによる、セクション 1. (1) からの拡張であるとされる。

- (4) John took a whiff of the coffee.

— Norvig and Lakoff (1987: 204) (下線筆者)

上記 (4) では、香りがコーヒーの一部を構成すると捉えられているため、前置詞は from ではなく of が用いられている。そこで、上記 (4) は、「ジョンはコーヒーの香りを自分の (手の代わりに) 鼻を使って掴みとった」となり、香りがコーヒーから分離してジョンの方向へと移動したという捉え方が認められる。この考えを敷衍すると、take a look at においても、「何らかの対象物の光景を目によって掴みとった」という概念化が行われていることになり、ある光景が動作主の方向へ移動したという把握がなされることになるとも考えられる。

3. 「Take + 行為動詞派生名詞」構文における移動の方向

Norvig and Lakoff (1987) によれば、下記 (1) では punch は Harry から John に移動すると考えられているのに対し、下記 (2) においては punch が John から Harry に向かって移動すると考えられている。

- (1) John took a punch from Harry.
- (2) John took a punch at Harry.

— Norvig and Lakoff (1987: 201) (下線筆者)

上記 (1) と (2) の間に違いが生じるのは、起点表示前置詞 from と到達点表示前置詞 at の使い分けによる。

3.1. 「Take + 視覚動詞派生名詞」構文における視線の方向

「見る」という行為は視線が眼球から外部の対象物に向かって発せられると捉えられているため、英語では下記 (1) – (4) のような視覚表現が生じる。

- (1) Watson indicated the cottage. Ranpo followed his glance and looked inside.
— Amagi (1998: 69) (下線筆者)
- (2) Hajime gave Miyuki a fleeting glance,...
— Amagi (1998: 101) (下線筆者)
- (3) She flung a glance as sharp as the knife she was holding at Sid and Watson.
— Amagi (1998: 183) (下線筆者)
- (4) Gregson and Lestrade exchanged glances,...
— Doyle (2001: 111) (下線筆者)

上記 (1) – (4) で示した英語動詞 glance については、以下 (5) の見解がある。

- (5) …この語 [glance] のなかには lance (槍) がすっぽり入っているのだから。lance は、ラテン語の lancer (投げる) に由来する。それ故、glance は「投げかける」ものとなる。動詞 cast (投げる)、throw (投げる)、shoot (放つ、射る) と結びつく。
— 瀬戸 (1995: 34-35)

英和辞典にも上記 (5) を支持する以下 (6) の例がある。

- (6) He took [gave, cast] a glance at me.
(彼はちらりと私を見た)
— 『スーパー・アンカー英和辞典』 (s.v. ²glance ㊦ 1 ㊧) (下線筆者)

上記 (6) において、give や cast のような、到達点に目的語の指示物が移動することを示す動詞と glance が共起することと、到達点を表示する前置詞 at が glance に後置されることは、この場合の take が「話し手や聞き手が存在する場所から離れた方向へある対象物を移動させる」という意義になることを示唆している。

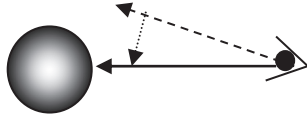
英語動詞 look も glance と同様に対象物に視線を「投げかける」ものとして捉えられていることが、以下 (7) に見られる。

- (7) Hajime said, exchanging looks with Miyuki...

— Amagi (1998: 192) (下線筆者)

以下 (8) のように、英和辞典にも同様の記述がある。

- (8) 視線を向けて見る



— 『E ゲイト英和辞典』 (s.v. look 動) (筆者による簡略化有り)

上記 (8) で示されるように、「見る」という行為は、視線が眼球から対象物へ向かうこととして把握されるため、以下 (9) – (11) のように、視覚表現は at と共起する。

- (9) But Patricia just glared at him...

— Amagi (1998: 127) (下線筆者)

- (10) Hajime flashed a look at Agatha.

— Amagi (1998: 149) (下線筆者)

- (11) …Hajime said, staring at Agatha.

— Amagi (1998: 161) (下線筆者)

このように考えると、take a look at も、上記 (9) – (11) と同じく、到達点表示前置詞 at と共起しているために、「対象物へ視線を投げかけた」と解釈すべきとも思われる。

3.2. 「Take + 視覚動詞派生名詞」構文における光景の移動

次に、「見る」という行為が「掴む」概念で表現される事例を検討する。以下 (1) は、「知覚することは掴みとることである」という概念メタファーに基づいた表現であることが catch の使用で明らかである。

- (1) Hajime felt he caught a glimpse of the real woman behind the façade.

— Amagi (1998: 118) (下線筆者)

以下 (2) において、glimpse と glance の違いが記載されている。

- (2) glimpse には、glimmer (かすかに光る) が入っている。光源があって、それがちらりと目に入る一、これが glimpse の基本的な意味である。…これに応じて、glimpse は、「投げる」ことはできず、「つかまえる」を表す catch と結びつく。glance は対象に向かって視線を投げかける、いわば、光を発するのに対し、glimpse は対象が発する光を受け止めることを意

味する。

— 瀬戸 (1995: 35)

以下 (3) においては catch の被動作主が sight であることから、ある光景の知覚は、「光景は物理物である」という存在のメタファーと「見ることは光景を物理物として掴むことである」という概念メタファーに基づいていることがわかる。

- (3) Then, from behind a trunk, he caught sight of the heads — all five of them — flitting about, and chatting as they flitted. They were eating worms and insects which they found on the ground or among the trees.

— Hearn (2006: 59) (下線筆者)

上記 (3) における下線部の前置詞 of は「全体の一部」を表示する。このため、下線部全体は、頭部 (the heads) の一部である光景 (sight) を「掴む (catch)」という概念で表示されている。

Take a look at においては、到達点を表示する前置詞 at が用いられてはいるが、この句動詞においては、視線が「外部に向かう」のではなく、光景を「掴みとる (take)」という概念が存在することを以下の考察で示したい。下記 (4) では take の目的語は a look であり、上記 (3) のように光景 (sight) ではないものの、take a last look at the landscape には光景 (landscape) の描写が後続している。

- (4) ...then he opened a window in his little sleeping-room, to take a last look at the landscape before lying down. The night was beautiful: there was no cloud in the sky; there was no wind; and the strong moonlight threw down sharp black shadows of foliage, and glittering on the dews of the garden.

— Hearn (2006: 58) (下線筆者)

さらに、以下 (5) を分析する。

- (5) (状況：ある女性が、アフリカからニューヨークへ向かう飛行機に乗っている。)

She looked out the window to take one last look at her beloved land. The soil was red and rich and fertile, and in the bowls of its earth were treasures beyond man's dreams.

— Sheldon (1982: 271) (下線筆者)

上記 (5) においては、look out が「(窓) から外を見る」行為であるのに対し、take one last look at は「光景を知覚する」行為が「掴み取る」という概念を表示する take により表示されているといえる。上記 (5) の take の形式上の目的語は one last look であるが意味上の目的語は her beloved land の光景である。そのために土地の光景描写が後続するのである。

次に、以下 (6) を分析する。

- (6) (状況：姉によって着ていたナイトガウンに火をつけられた妹のところへ大人二人が飛び込んでくる。)

Mrs. Tyler and Sergeant Dougherty rushed in, took one horrified look at the scene before them and went into action.

— Sheldon (1982: 312) (下線筆者)

上記 (6) では、恐ろしい (horrified) のは光景 (the scene) であって、見るという行為 (one look at) ではない。なぜなら、以下 (7a) と同義であるのは (7b) で、(7c) ではないからである。このことは、(7a) における look at が「対象物に目を向ける」という、この動詞の本来の意味から「光景」という意味に変化していることを示している。

- (7) a. They took a horrified look at the scene before them.
 b. They looked at a horrified scene before them.
 c. They looked at a scene before them horrified.

また、take a look at における look at が動詞としての性質を保持しているならば、look に先行する形容詞句が意味上は副詞として機能するはずである。このことを (8a-b) および (9a-b) で分析する。

- (8) a. They took a long look at the scene.
 b. They took a look at the scene for a long time.
 (9) a. They took a horrified look at the scene.
 b. They took a look at the scene horrified.

上記 (8b) では副詞句 for a longtime が「彼らがその光景を見た」という出来事全体を修飾し、(8a) と (8b) は同義である。これに対して、(9b) では horrified が副詞として「彼らがその光景を見た」という出来事全体を修飾するものの、文全体の意味が「彼らはその光景をこわごわ見た」となり、(9a) とは意味が異なる。このことは、take a look at における look at が統語上は take の目的語となることで、もはや「見る」という本来の動詞としての機能を喪失していることを示すものと考えられる。

4. take a look at における両義性

味覚、触覚、臭覚、聴覚に関しては、それぞれの感覚の対象物を知覚器官に取り込むという一方向性が見られるのに対し、視覚の場合は、まず眼球から視線がその対象物に向かい、次いでその対象物の光景を眼球に映像として取り込むという往復の方向性が見られる。視覚の往復の方向性に対応して、それぞれの表現があることが、以下 (1) で指摘されている。

- (1) glance が「ちらりと見ること (行為)」であるのに対し、glimpse は通例「glance の結果目に入るもの」の意。

— 『スーパー・アンカー英和辞典』 第5版 (s.v. glimpse)

また、以下 (2) では、眼球から対象物への方向と対象物から眼球への方向とが混合された表現が見られることが指摘されている。

- (2) take [give, have] a *glance* at ... / catch [get, have provide] a *glimpse* of ... のように動詞と前置詞が異なるが、両者の混合により take [give] a *glimpse* at ... の連語も時に用いられる。

— 『ジーニアス英和辞典』 第5版 (s.v. glimpse)

take a look at においても、形式上は take a glance at と同様に、眼球から対象物への視線の方向が表示されるものの、意味上は眼球に向かって対象物の光景を移動させるという、両義性を有しているものと考えられる。

おわりに

本稿では、英語句動詞 take a look at を、形式と意味の両面から cast a glance at と catch a glimpse of と比較しながら考察を進めることで、人間が視覚という日常経験を「視線」と光景の「取り込み」の両方向で捉えていることが take a look at に反映されていることがわかった。今後は take a [walk, rest, kick] などの表現も視野に入れて考察を進めていきたい。

参考文献

- Amagi, S. (trans. Tamaki, Y.) (1998) *Murder On-line*. Tokyo: Kodansha.
- Doyle, C. (2001) *A Study in Scarlet*. London: Penguin Books Limited.
- Hearn, L. (2006) *Kwaidan: Ghost Stories and Strange Tales of Old Japan*. New York: Dover Publications.
- Minamide, Y. et al. (eds.) (南出康世) (2014) 『ジーニアス英和辞典』 第5版 東京：大修館書店.
- Norvig, P. and G. Lakoff (1987) "Taking: A Study in Lexical Network Theory." *Proceedings of the Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society*. 13: 195-206.
- Seto, K. (瀬戸賢一) (1995) 『メタファー思考』 東京：講談社.
- Sheldon, S. (1982) *Master of the Game*. New York: Grand Central Publishing.
- Tanaka, S. et al. (eds.) (田中茂範他編) (2003) 『E ゲイト英和辞典』 東京：ベネッセコーポレーション.
- Yamagishi, K. et al. (eds.) (山岸勝榮他編) (2015) 『スーパー・アンカー英和辞典』 第5版 東京：学研プラス.